

学校運営協議会議事録

校名	大阪府立難波支援学校
校長名	室田 澄江

開催日時	令和 7年11月26日(水) 13:30~14:45
開催場所	大阪府立難波支援学校 校長室
出席者(委員)	小林委員、上宮委員、大島委員、鈴木委員、谷口委員
出席者(学校)	室田校長、錦織教頭、植松首席、吉村首席、生田首席、大原首席、引野事務長
傍聴者	なし
協議資料	令和7年度人権教育の取り組みについて やさしい日本語研修実施要項 大規模災害PTより(経過報告)

議題等(次第順)

- ・学校経営計画について
- ・その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)

令和7年度学校経営計画について、各委員から次の意見が出された。
(令和7年度人権教育の取り組みについて)

- ・人権とは、その彼ら彼女らは守られる立場にありながら、相手の人権を守るという、その視点がすごく大事であり、それらはものすごく多様な形であるが、6・3・3の12年の学制で系統立てて取り組んでいることに感心した。
- ・難波支援学校だけで行われていることに、すごくもったいないと思うような内容であるので、地域の学校も含め全体にも広め、共有しながらやっていただきたい。
- ・人権のことをだんだんと分かってくる中学生、高校生になってきたときに、「私たちのことを私たち抜きで決めないで」という言葉をよく言う。その言葉を使う中学生、高校生が本当の意味、的確な意味を本人自身が理解できるような勉強、学ぶ機会があってもよいのではないか。
- ・「健全な同僚性の構築」は非常に根本的な問題であり大事なこと。大切な永遠の課題なのではないか、というところをテーマに挙げていて嬉しい。同僚性を大事にしていくという、その姿勢は必要であり大事である。
- ・子ども達は教員をよく見ているし、教員の行動一つ一つに敏感に反応するところがある。日頃から教員が同僚のことを考えて接しているということを知り、そういうところもしっかりと子どもたちには伝わっている、というところを改めて実感することが出来た。

(「やさしい日本語」の研修について)

- ・親よりも子どもの方が日本語が出来ている、というのも当たり前状況になっており、実際にこのような作業というのは肅々とやっていかざるを得ないのではないか。
- ・やさしい日本語で作成したプリントを配付をしたときに、保護者からフィードバックされた意見も大事にしていきながら、内容をブラッシュアップしていただきたい。
- ・簡単な文章にすることを心がけること、その上でふりがなを付けるということが大事である。
- ・外国籍でなくても、書類の意味が分からない、という保護者が結構いるので、学校で取り組むことはすごく有難い。
- ・発達障がいのある学生に伝えるときの、簡潔に短く、はっきり分かりやすいように、ゆっくりと言うことと本当に共通することなので、支援学校の先生方にとっては、とてもやりやすい、考えやすい、取り組みやすい内容である。
- ・学校の先生は、私も含めて、喋りだすや否やそのうちに何を言っているのか分からない、ということがありがちなので、本当に相手分かるように短く、はっきりと言うことが大事である。

(大規模災害対策)

- ・災害用の保存食も最近はかなりたくさんいろいろ種類があり、匂いとかそういうかなり癖のあるものも多いので、じっくり教員で試食をされて決めていただきたい。
- ・どこでもやっていることかもしれないが、児童生徒の好物を含めた常備食と飲み物を用意してもらい非常時に持ち出せるようロッカーに保管することは良い取組事例としてお勧めする。
- ・学校は地域の避難所でもある。避難所がすぐに開設されるわけではなく、通信手段が携帯電話だけでは正しい避難行動をとることが難しい。地域では防災無線を配備して災害情報を直接入手することが出来る。学校においても導入してはどうか。

次回の会議日程

日時	令和8年2月下旬
会場	難波支援学校(具体的な会議室は未定)